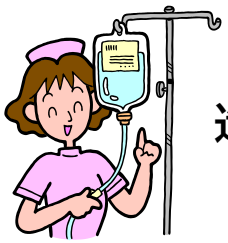


造影剤を用いた CT や X 線検査について

今回実施する検査は”ヨード系造影剤”という薬剤を注射して行います。造影剤を用いることにより、さらに精度の高い診断が可能となります。

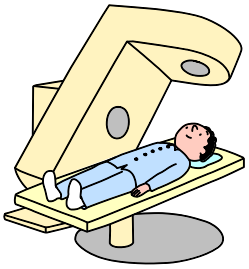
造影剤を注入する際に体が熱くなることや、造影剤が血管外にもれて痛みを伴うことがありますが通常すぐにおさまります。おさまらない時はおっしゃって下さい。

その他、まれに下記のような副作用が起こることもあります。

1. 軽い副作用：吐き気、動悸、頭痛、かゆみ、発疹などで一過性のものです。このような副作用の発生する確率は、100 人につき 5 人以下、つまり 5%以下です。
2. 重い副作用：呼吸困難、意識障害、血圧低下などで治療が必要となり、ごくまれには後遺症が残るおそれもあります。このような副作用の発生する確率は、およそ 1000 人につき 1 人、つまり 0.1%です。また病状や体質によってはおよそ 10-20 万人につき 1 人の割合（0.0005%ー 0.001%）で生命を失う場合もあります。

アレルギー体質や喘息などの既往のある方ではこれらの副作用の発生する確率が少し高くなったり、腎臓の悪い方ではさらに腎機能が悪化したりすることがあります。
このため検査前の状態を把握しておくことがとても重要です。問診表にお答え下さい。
病状や体質によっては造影剤を使用できないことがあります。

検査にあたっては十分に注意をはらい、万一の事態にも適切な対応ができる体制をとっていますが、上記のようなリスクがわずかにあることをご理解下さい。



医療法人関田会ときわ病院
TEL:0794-85-2304